

## チリモン

栽培推進部 岡部 久

皆さんは「チリモン」をご存知ですか？ チリメンモンスターの略で、チリメンは西日本でいうチリメンジャコ、つまり関東ではしらす干しのことです。その中に混ざる様々な特徴的な形をした、しらす以外の生物をモンスターにたとえて表現したものです。そのモンスターを探し、何者であるかを調べるイベントが各地で行われています。

私は学生時代に、外房の岩礁海岸で夜間に集魚灯を焚き、集まる魚の子供「仔稚魚」の季節的な出現の様子を観察していたので、しらす干しを見るとつい、カタクチイワシ以外の魚やエビ・カニの仲間、イカ・タコの仲間をほじくって探す癖があります。居酒屋などでそれをやると、周りから白い目で見られるのですが、そうした経歴を買われてか、昨年から静岡県某漁港で開催される地域興しのイベントのチリモン教室に、ボランティア講師として招かれるようになりました。

その場に用意されるのは相模灘や遠州灘で漁獲された地場産のほか、他県産でしらす以外の混ざり物が多い、いわば「チリモン用」に漁獲されたしらす干しです。これまでの教室でカタクチイワシのしらすに混じっていたのはマイワシ、ウルメイワシをはじめ、イベントの主役であるアジ・サバ類、エソの仲間、タイの仲間、ハゼの仲間といった魚類。カニ類のゾエア・メガロパ幼生やシャコのアリマ幼生、アミの仲間といった甲殻類。イカやタコの仲間といった頭足類。中にはタツノオトシゴの仲間や、イセエビやウチワエビのフィロゾーマ幼生といったレアものをゲットする子もいて、会場は大いに盛り上がります。最後は種類ごとに分けて持ち帰れるケースに入れて、お土産として渡しています。こうした食べられる海の生き物との触れ合いを通して、魚食の大切さを伝えるのがチリモン教室の主眼なのですが、子供たちの夏休みの自由研究にも十分使える教材になると思います。

本県沿岸のしらす干しでは混ざり物が多いという印象はないのですが、機会があれば、県内のどこかでチリモンの魅力を知ってもらおう手伝いをしたいと思っています。



いろいろなチリモン (左上から時計回りに)  
サバ、エソの仲間、イカの仲間、エビの仲間、カサゴ

「よもやま話 20」

船舶課 村上哲士

4月1日付けの人事異動で船舶課長として赴任しました村上です。船舶課では「江の島丸」、「たちばな」という2隻の船と無線局を所管しています。

「江の島丸」は、総トン数105トンで沿岸・沖合域を対象とした水産資源の調査や東京湾での貧酸素水塊調査などを行っています。

「たちばな」は、5月の所長のコラムで話がありましたように、今年3月に5代目として新船が竣工し、漁業取締り業務を開始しています。

無線局の業務は、警察や消防と同様に非常に公共性が高く、海難事故時の緊急通信を行うほか、気象通報、津波等の防災情報などを発信し、漁業者の方々の操業の安全に欠かせないものです。

私は、船や無線局の運航や運営の管理・調整、働く職員の労務管理などを主な仕事としています。

職員が、船には2隻で19名、無線局は約10名（非常勤職員を合わせて）で、人数的には大所帯かと思います。また、無線局は緊急通信も行うという仕事柄24時間体制、交代勤務で運営していますが、勤務の割振りを行う時などは非常に大変です。

船も無線局も船長や担当の職員がしっかりと仕事をしてくれるので、こちらは皆さんの話をよく聞いて、皆さんが働きやすい環境を整えるのが一番大事なと思っています。

まだ着任して三か月ですが、ほとんどが机の前に座っている仕事なので、メタボ気味の状態を悪化させないように気を付けないといけない今日この頃です。

今年は梅雨が短く、あっという間に真夏、皆さまもお身体に気を付けてください。